

ん

だすな

2016
11月号

森林（やま）を守ることは未来を守ること

二ツ井 宝の森林（やま）プロジェクト 平成24年3月に設立



梅内聚落会館前の植林記念碑

明治時代より先達たちが植林・管理してきた森林財産を次世代につなげたいとの思いから「森林（やま）とともに地域を育む」を合言葉に、能代市二ツ井梅内聚落で間伐活動や森づくり活動を行っています。

秋田県水と緑の森づくり税を活用し、二ツ井小学校の協力のもと「次代を担う子供たちと宝の森林（やま）に親しむ」活動をしています。／ナメコ、シイタケの植菌活動／学習林の枝打ち／馬子公園のモミジの植樹等です。

売り物にならない間伐材（林地残材）を薪として販売して、山をきれいにし町が元気になって自分たちもご褒美の晩酌代ができる。そんな男性達の活動を見ていた女性の方々が、豊富な山菜を生かした活動が出来ないかと「梅内山菜倶楽部」を平成28年3月に結成し、「タラの芽」や「こしあぶら」を試験的に出荷したとのことでした。



作業時の安全確保のため防護ズボンを着着

10月30日（日）能代市二ツ井梅内地区で薪づくり（間伐材）体験が行われました。自治会会館にて、梅内地区ならび、地区の大きな産業である林業の歴史と植林・整備について説明がありました。「木の駅プロジェクト」「薪の駅プロジェクト」等の活動をしている団体ということで、卒論／修士論文のために参加の学生達や、仕事で扱う木についてもっと知りたい木工職人の方など、色々な目的を持った方々が県内外より11名（うち女性4名）が参加しました。「安全に行えば山の作業は楽しい」の指導の下、チェーンソー操作講習・間伐材の玉切作業・運搬・薪割、棚積み体験をしました。災害等に村の存続のための



間伐材の伐採作業の説明



伐採時に笛を鳴らし、周りの安全確認

集落林（樹齢100年）と田ノ沢遊歩道の見学と10年後に日本に梅内という地名が知れ渡るようにしたいと代表の挨拶がありました。

二ツ井宝の森林（やま）プロジェクト
能代市二ツ井町梅内
代表 藤田 孝一
事務局 船山 富雄
TEL 090-7077-6492



安全確認と見守りの中で玉切作業をしました

「んだすな」とは秋田弁で人と人とが願いを共感し、協力しあえたらという思いが込められています。

木都 NOSHIRO 「木育のすすめ」

主催 能代で木育を推進する会
後援 能代市 秋田県立大学木材高度加工研究所
能代木材産業連合会 能代商工会議所 北羽新報
能代市法人保育所連絡会 能代市私立幼稚園協会

県民参加の森づくり事業（森づくり県民提案事業補助金を活用し開催されたものです。

8月24日（水）能代山本広域交流センターで、木都能代「木育のすすめ」と題した講演会が開催されました。能代で木育を推進する会の佐々木会長（NPO法人メリーゴーランド代表）が、ここ数か月の間ですが、園児が新しいおもちゃの中からプラスチックより木のおもちゃを自ら選んでいたこと、そしていつもよりのびのび遊んでいる様子を見て、素材の木の良さに気がつき「木育」に取り組んだこと、かつて東洋一の木都と呼ばれた能代市ならではの活動を始めたことと挨拶がありました。



多目的ホールの様子。

「木育」は、2004年に北海道で生まれた言葉で、子どもをはじめとするすべての人びとが「木とふれあい、木に学び、木と生きる」取り組みです。その後、2006年に「森林・林業基本計画」の中で閣議決定された言葉でもあります。ただ木を使うというだけではなく木を使うことと、環境を守ることがつながっていることをしっかり理解して木を活かすことです。



スライドで建築事例や資料説明等

能代市には「木の学校」があります。「風の松原」や「毘沙門憩の森」もあります。市から木造建築への補助金等があります。小さい時から木の香りや肌にふれて木に親しみをもってほしいと市長から話がありました。

講師 仙田 満 氏【(株)環境デザイン研究所会長・東京工業大学名誉教授】
若杉 浩一氏【パワープレイス(株) シニアディレクター・プロダクトデザイナー】
小杉栄次郎氏【秋田公立美術大学景観デザイン専攻准教授】



シンポジウムも盛り上がりました。

三人の講師の方々の講演内容も、子どもが育つ環境に木を取り入れていくことで、木の良さ（魅力）を知ってもらおう大きなきっかけになる事。加工・製品にして地域の長く続く事業にするために心を奪うような魅力的なデザインが必要。現代の技術で加工された木は構造強度や耐火性が確保されている。住宅構造材を使った「ビッグファニチャー」での街づくりの様子等が紹介されました。

「能代で木育を推進する会」

会長 佐々木久美子

（NPO法人メリーゴーランド代表）
市や市民有志、民間企業が2015年10月13日に設立しました。子ども達が木製のおもちゃに触れて木の魅力や木の文化への理解を深め、『木育』を通して子どもの情緒を育むほか、県産材の消費拡大や木材産業の活性化を目指しています。

活用されないままの森林が各地にあります。人手不足や経済面で手入れ作業をしていない林もあります。そのような状況で、間伐活動や下草刈りなど環境保全の活動や植樹をしている市民活動団体があります。デザインを加えて木の魅力をひき出し、木工加工品に付加価値を付けることで消費拡大につなげ、地元産材の経済的効果が持続的になることや、山が整備されること等、地域の活性化が期待されます。

秋田市で県内3ヶ所のNPO支援センターでつくる実行委員会により「あきたNPO会議～NPO活動が秋田を変える～」が開かれました。

特定非営利活動法人 秋田県北NPO支援センター
特定非営利活動法人 秋田県南NPO支援センター
特定非営利活動法人 あきたパートナーシップ

主催／あきたNPO会議実行委員会

共催／あきたSB・CBサポートネットワーク

まなぶ！つながる！

平成28年10月16日（日）秋田市の遊学舎にて、地域の課題解決などに取り組む市民活動団体の役割や課題について NPO・企業・行政等と一緒に学びあう会が開催されました。県内各地のNPO法人・市民団体等の代表者や行政・企業などから約90人が一堂に会し、さまざまな活動分野の団体が地域を越えて集まりました。さらなる活動の活性のために「資金援助」「協働」「NPOの手続き」「情報発信」の4つの分科会で活発な話し合いがされました。名刺交換会では、活動分野が違う団体同士が問題点や共通点を見つけ、熱心に情報交換をしている様子が会場のいたるところで見られました。また閉会後に会場が解放されて**NPOなんでも相談ブース**も設けられました。時間が許す限り、相談する方や団体同士で情報交換等が続いていました。



あきたパートナーシップ
畠山副理事長の挨拶



各団体の情報提供タイム



名刺交換会の様子



4分科会に分かれて、学びあいました。

県北地区から6団体が参加し、4団体が分科会で発表しました。



分科会1：知らないで損！！資金面の応援情報
分科会のなかで、一番参加者が多かったようです。



分科会3：みんなどうしてる？めんどくさいNPOの手続き
どの団体も真剣に聞き入っています。



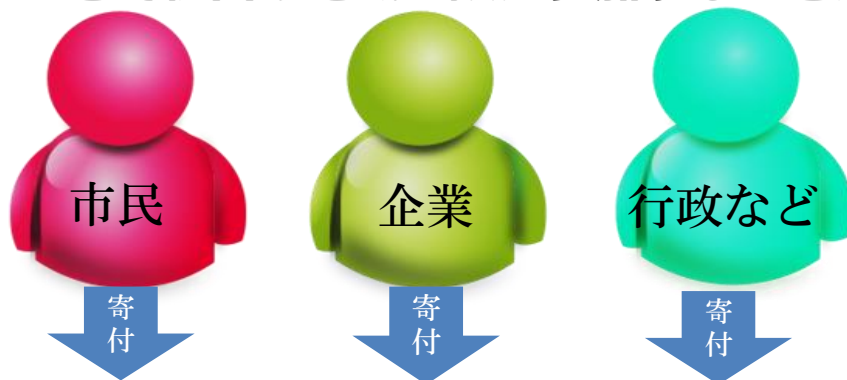
分科会2：「できない」が「できる」に変わる「協働」とは？県北から「ハートランドひまわり」「八峰町観光協会」の発表がありました。



分科会4：伝わっていますか？あなたの団体情報
活動内容のPR方法について悩みを話し合いました。

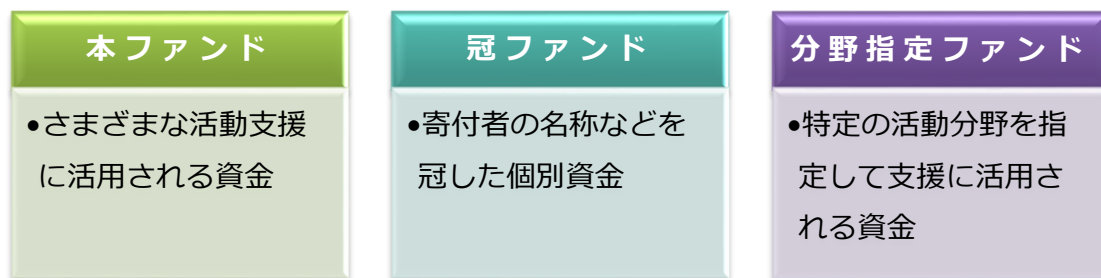


あきたスギッチファンドは 秋田を元気にするために資金面から応援する認定NPO法人です。誰でも一口1,000円から寄付をすることで秋田の地域支援に参加することができます。



助成メニューに対応した3種類のファンドのいずれかを選択ができます。

あきたスギッチファンド



助成

NPO等の市民活動団体・ボランティア団体・地縁団体等

地域の困りごといろいろ

雪よせができなくて困っている高齢者

協同組織を作
って除雪隊が実施
する

まちに賑わいがなくなった
イベントでまち
を盛り上げる

若者のとじこもり
若者たちの
語らいの場
を作る

一人で家にいて孤独に
悩む高齢者

高齢者の集う
サロンを作る

子育てに悩む母親たち
子育て中の
ママのサー
クルを作る

イベント、活動情報など掲載記事も募集しています。お気軽に連絡ください。